

中部圏広域地方計画改定骨子(案)(目標・方針・主要な施策)

目標(案)	<p>①世界に誇るものづくりを軸とし、リニア中央新幹線を最大限活かして、スーパーメガリージョンの「極」(経済成長、人口増、国際交流・生活・文化等)を形成、我が国の成長を牽引</p> <p>②各地域の個性を磨く拠点づくりを進め、地域間の連携・重層的な対流を促進、中部圏の地方創生の実現</p>
	<p>方 針</p> <p>主要な施策</p>
<p>I 世界最強・最先端のものづくりの進化</p>	<p>ものづくり中部の集積力や技術力、人材などを活かし産業の国際競争力を強化し、世界最強・最先端のものづくり中核圏域を形成。さらにものづくり技術の活用・応用により、新たな産業を創生、加えて水素社会実現等の新しい世界モデルを提示。</p> <p>1. 国際競争力を担う産業の強化 ①中部圏の産業競争力の強化(自動車、航空機、ヘルスケア、環境、ロボット産業等) ②ユーラシアダイナミズムを取り込む北陸圏との連携 ③ものづくり産業を支える中堅・中小企業の振興</p> <p>2. 国際競争力を支える産業基盤の強化 ～企業の国内回帰を誘因～ ①基幹産業を支える物流拠点の強化(中部国際空港の完全24時間化、名古屋港等) ②ものづくり産業を支える陸海空の拠点を結ぶ道路ネットワーク強化(産業立地につながる東海環状軸強化、東西軸・南北軸強化)(中部国際空港へのダブルアクセス、三河港や清水港など港湾へのアクセス強化) ③安定したエネルギー供給や多様化・水資源の確保 ④将来を見据えた総合的な土地利用</p> <p>3. 高度なものづくり技術の活用による新たな産業の創生 ①ものづくり産業に関連する第三次産業の創生 ②大学や民間研究施設等のネットワーク強化による更なる研究力の強化(ナレッジリンク)</p> <p>4. 水素社会実現等の新しい世界モデルの提示 ①ものづくり技術を活かした水素社会の実現</p>
<p>II スーパーメガリージョンのセンターとして、我が国の成長を牽引</p>	<p>リニア開業で誕生する世界最大のスーパーメガリージョン。中部圏の日本のまんなかで交通結節点に位置する地勢やものづくり、ゆとりある生活環境を有する地域特性を活かしつつリニア効果を最大化。首都圏からの人口環流を先導、人口増の「極」を形成し、東京一極集中を是正しつつ、我が国の成長を牽引。</p> <p>1. 人口増の「極」の形成 ～ハートランドオブジャパンの創出～ ①リニアの高速性を活かした中部固有の新たな価値の創造(地域文化、二地域居住、ライフスタイル、産業構造等) ②名古屋への変革 - 世界の“ Nagoya ”へ(名古屋の魅力向上、周辺市町～中部圏への魅力拡大) ③名古屋駅のスーパーターミナル化(高速道路直結、鉄道接続利便性強化等) ④リニア岐阜駅(中津川市)を核とした地域づくり ⑤リニア長野駅(飯田市)を核とした地域づくり(リニアバレー構想) ⑥東海道新幹線等の利便性向上による地域づくり</p> <p>2. リニア効果の中部圏全域への波及 ①リニア効果波及のためのネットワーク強化(名古屋駅と中部国際空港のアクセス強化、鉄道アクセス40分圏拡大)(東海環状自動車道等環状軸、東海北陸自動車道等南北軸の強化)(周辺都市との高速道路ネットワーク、リニア関連アクセス道路強化)</p> <p>3. リニアを活かした観光・交流 ①国内外との観光・交流の促進(中部国際空港やリニア駅を核とした広域観光交流圏形成、リニア・北陸新幹線・東海道新幹線の環状ルート化、観光資源・観光地のネットワーク化等) ②昇龍道プロジェクトの展開強化 ③国際交流拠点の魅力創造・発信(国際会議や国際見本市、スポーツ大会、文化芸術イベントなどの誘致並びに施設整備等)</p>
<p>III 地域の個性と対流による地方創生</p>	<p>人口減少下において、地域産業・地域資源を活かした雇用創出などを推進するとともに、行政や生活機能を一定のエリアに集約化(コンパクト化)し、交通ネットワークで結ぶことにより住民生活の利便性を向上。また、圏域内におけるそれぞれの地域が熱源となり、地域特性に即した個性を磨き、役割や機能を分担しつつ重層的な対流を促進することで、中部圏における地方創生を実現。</p> <p>1. コンパクト+ネットワーク ①地域特性に即した「コンパクト+ネットワーク」による対流の促進 ②「小さな拠点」の形成・活用による持続可能な地域づくりの推進 ③「道の駅」や「みなとオアシス」による賑わい交流・防災拠点の形成(重点「道の駅」支援等)</p> <p>2. 広域連携都市圏の形成 ①防災、医療連携など安全・安心な地域づくりのための広域連携(三遠南信地域、伊那谷地域、伊豆地域、紀伊半島地域、東海環状沿線地域等)(広域連携を支える高速道路ネットワーク強化、スマートIC等) ②高次都市機能の相互補完連携など連携中核都市圏の設定(中東遠地域、東濃地域、西三河地域、南伊勢・志摩地域等)</p> <p>3. 産業の活性化による地域活力の維持・発展 ①地域を支える農林水産業の強化(ロボット、植物工場、農地の大区画化、林業の成長産業化等) ②地域住民の生活を支える産業の振興 ③地場産業の振興</p> <p>4. 地域資源を活用した交流連携の創出(中部圏の奥座敷の創出) ①地域資源を最大限活用する観光振興 ②中部固有の風土・風景を背景に良好な景観を創出、美しい地域づくり ③歴史・文化の魅力を活かしたまちづくり(歴史や自然と溶け合う文化(高山、白川郷、伊勢、熊野、富士山、伊豆、宿場町、街道、産業遺産等)) ④伝統工芸の振興(からくり、木工技術、刃物、やきもの、和紙、染め物、水引など) ⑤水辺の未来創造、風景街道</p> <p>5. 快適・安心で人と環境にやさしい生活環境の構築 ①自動車や公共交通など多様な交通手段の連携により住みやすい生活環境を構築(半自動運転オンデマンドバス等) ②道路交通・公共交通等の安全確保(交通事故、通学路、雪害対策等)</p>
<p>IV 安全・安心で環境と共生した地域づくり</p>	<p>南海トラフ地震や、頻発・激甚化する風水害や土砂災害、火山噴火災害、渇水など自然災害に備え、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策、また国土の健全な水循環など、国土の適切な管理、加えてインフラの戦略的な維持・整備・活用により安全・安心な国土づくりを促進。さらに、自然環境の保全再生等、環境と共生した持続可能な地域づくりを推進。</p> <p>1. 災害に対して粘り強くしなやかな国土の構築 ①南海トラフ地震に備えた国土構造の構築 ②頻発・激甚化する自然災害への対応(スーパー伊勢湾台風等大規模な風水害や土砂災害、火山噴火、渇水等) ③都市の防災・災害対策の推進 ④広域連携によるバックアップ機能の確保 ⑤北陸圏との連携強化による国土レベルでの多重性代替性の確保 ⑥社会経済活動を寸断させないダブルネットワーク化など代替補完機能の確保 ⑦地域コミュニティを活かした自助・共助社会の構築</p> <p>2. 国土の適切な管理 ①循環型国土・社会の構築(水資源の安定確保(ゼロ水への備え)、健全な水循環の確保、物質循環の確保等) ②総合的な土砂管理などの国土の適切な保全 ③森林や農用地の整備・保全(森林や農地の多面的な機能の発揮、農地の集積・集約化等良好な管理等)</p> <p>3. インフラの維持・整備・活用 ①インフラの戦略的なメンテナンスの推進 ②インフラの安定的・持続的な整備 ③利用者ニーズに応じ既存ストックを最大限活用しつつ、インフラを戦略的に賢く使っていく ④インフラを支える担い手の確保・育成</p> <p>4. 環境と共生した持続可能な地域づくり ①自然環境の保全・再生 ②低炭素型都市・地域づくりの推進</p>
<p>V 人材育成と共助社会の形成</p>	<p>中部圏のゆとりある生活環境や、地域や人のつながり、地域コミュニティの強さなどを活かし、安心して子どもを産み育て、女性が就労しやすく、高齢者も生き甲斐を持って参画できる社会の実現、また、ものづくり中部の次代を担う人材を育て、若者をはじめ誰もが地域に愛着を持ち、助け合う共助社会を実現。</p> <p>1. 人材育成、女性・高齢者の参画社会 ①グローバルに活躍する人材の育成と確保 ②地域を担う人材の育成と確保 ③女性活躍社会の実現 ④高齢者参画社会の促進 ⑤多文化共生社会の形成</p> <p>2. 共助社会 ①多様な主体(地域自治組織、NPO、民間等)による地域づくり、共助社会づくり ②若者をはじめ、誰もが愛着と憧れを持ち、住み続けたい地域づくり ③コミュニティの再生(空き家対策等)</p> <p>3. 民間活力の活用 ①民間活力の活用(地域資金の活用等)</p>